オホーツク局 教師力向上セミナー

端末活用 実践を紹介

附属釧路中が数学等の授業配信

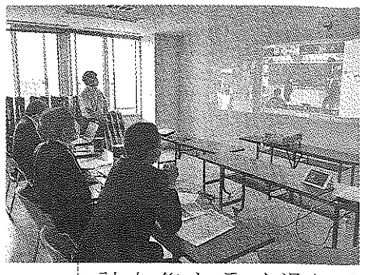
【網走発】オホーツク教育局は9月30日と10月1日の2日間、道教育大学附属釧路中学校（早勢裕明校長）と共催で、ウェブ会議システムZoomを活用した管内教師力向上セミナー第6弾「1人1台端末を効果的に活用した〝GIGAスクール〟」を開いた。ロイロノートを活用した数学科と、Google Suiteを活用した美術科の授業を、附属釧路中がリアルタイムで配信。オホーツク管内の教職員ら約20人が受信し、1人1台端末を活用した授業づくりの方法やアプリの機能などについて理解を深めた。

附属釧路中は、新型コロナウイルス感染症に対応した臨時休業期間中、授業支援クラウドサービスロイロノートなどを活用したオンライン授業を実施。学校再開した現在も、1人1台端末を活用した授業実践を積み重ねている。

セミナーは、1人1台端末を効果的に活用した授業参観や、GIGAスクール構想の実現にかかる説明・協議を通して、教師力の向上を図ることが目的。管内小・中学校の教諭や市町村教委職員など、2日間合わせて約20人が参加した。

初日は、ロイロノートを活用した数学科の授業を公開。3年B組（生徒数32人）「多項式では、研究主任の赤本純基教諭が「一の位の数が5で、十の位の数が同じ2桁の数の乗法の速算方法〝下2桁が一の位の数同士の積25、3桁目以上が一の位の数とそれに1を足した数の積〟の仕組みについて、数や文字式を用いて説明することができる」を本時の目標に授業を展開した。

赤本教諭は、「35×35」など「一の位の数が5で、十の位の数が同じ2桁の数の乗法」の速算方法について考えていく過程で生徒がロイロノートで作成したスライドを共有することによって、課題の焦点化や、2通り以上の考え方の比較検討などを行った。



授業づくりやアプリの機能を学んだ

授業後の協議で赤本教諭は、ロイロノートについて、①他者の考えから学ぶ機会をつくる②生徒の考えを比較検討する③振り返りを充実させる―の3つの観点から学びの促進を図ることができると説明した。

2日目は、更科結希主幹教諭によるGoogle Suiteを活用した美術科の授業を公開した。2年B組（生徒数33人）では、バンクシーの作品を題材に、アートと落書きの違いやアートの意味について考えさせた。

更科主幹教諭は、事前にGoogle Slideで班ごとにスライドを作成し、Google Classroomに投稿している。

生徒たちは、端末で「落書きとアートの違いは」「皆さんの考えるアートとは何か」などの発問に対する考えを、スライドのワークシートに入力。入力した内容は班ごとにリアルタイムで共有できるようになっており、他者の考えと比較したり、自分の意見を構築したりする手段として活用した。

また、授業で使ったスライドはClassroom上に保存できるため、更科主幹教諭は振り返りでの活用も見据えていた。

釧路市教委 オンライン研修初開催

自校から参加 効率的

国語、算数・数学の授業づくり

【釧路発】釧路市教委は9月24日から4回にわたって、ウェブ会議システムZoomを使った初のオンライン研修講座を開いた。配信会場を釧路教育研究センターとし、参加者はそれぞれ自校から参加。「国語科教育の授業づくり」「算数・数学科教育の授業づくり」の2つの講座に、市内および管内の小・中学校教員計103人が受講し研鑽を積んだ。参加者からは、効率的などと肯定的な意見が挙がった。

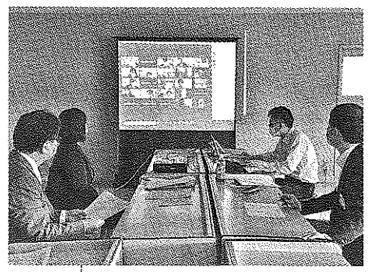
一度に参加できる人数が制限されるため、それぞれの講座を2回に分け、9月24日～10月1日の期間で計4回開催した。

初日に実施した国語科教育の授業づくりには、管内小・中学校21校から教員24人が受講した。

はじめに、関本裕介指導主事が「新学習指導要領を踏まえた、国語科の授業づくり」について説明。授業指導事項の重点化や単元目標・言語活動などの設定、身に付けた資質・能力の活用などの重要性を指摘した。

引き続き、鶴野小学校の久末卓矢教諭、音別中学校の福西晟歩教諭の授業動画を視聴。協議に入り、主体的・対話的で深い学びを重視した授業づくりについて意見を交わした。

オンライン研修について参加者からは「移動時間などを考えると効率的。授業後でも参加できる点もよかった」と肯定的な意見が多かった。



講座を担当した畠山和彦指導主事は「オンライン形式での研修講座は、時間の効率化だけでなく、今後の子どもたちの指導にもつながってくるはず。授業づくりにも生かしてほしい」と期待を寄せていた。

初回は24人が参加した

鹿追高が鹿追中で乗り入れ授業

高校生が留学経験語る

すべて英語 進路意識高め

【帯広発】鹿追高校（俵谷俊彦校長）は9月29日、鹿追町立鹿追中学校（中村宏喜校長）で英語科の乗り入れ授業を行った。鹿追高特別進学コースから2年生18人が訪問。鹿追中3年生51人を対象に、オールイングリッシュで展開し、質問文を使った交流やカナダ留学へのプレゼンテーションなどを通じて、中学生は進路意識を高めていた。

鹿追町は連携型中高一貫教育を推進。これまでも相互乗り入れ授業を行っており、今回は鹿追高生がカナダ留学についてプレゼンテーションするため、説明用の英文を考えた。

道教委のHokkaido Study Abroad programの一環で、北海道大学の学生でベトナム出身のジン・マーミンさんも参加した。

当日、鹿追高の佐藤潤教諭が進行を務め、オールイングリッシュで授業を展開した。

はじめに、現在完了形の過去分詞を穴埋めするビンゴゲームを実施。ワークシートを用い、生徒同士が質問文で交流した。

続いて「Present Canada」に移り、鹿追高生がカナダ短期留学で学んだことや楽しかったことを説明。タブレットを使って写真や動画を示しながら、カナダの景勝地や文化などについて伝えた。

中学生からは「カナダで特に楽しかったこと」「カナダで食べたおいしかった料理」など、盛んに質問が挙がっていた。

鹿追高2年生が鹿追中3年生に説明した

道学校給食功績者表彰

今後も業務に精進し

オホーツク育局が伝達式

【網走発】オホーツク教育局は9月29・30日の2日間、道学校給食功績者表彰伝達式を執り行った。伊賀治康局長が紋別養護学校と網走市立南小学校を訪問し、受賞者に表彰状を授与。栄誉をたたえるとともに、今後の活躍を期待した。

表彰は、学校給食の普及・充実、学校における食育の推進に特に功績のあった人を表彰し、学校給食の充実・発展に資することを目的に、昭和56年度から実施している。

本年度、オホーツク管内からは紋別養護の松本文子栄養教諭、網走市南地区共同調理場の佐藤真美業務主査（給食調理員）が栄誉に輝いた。

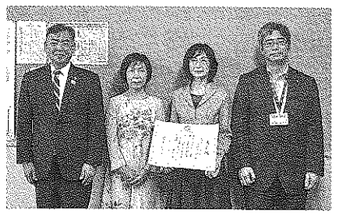
松本栄養教諭は、児童生徒の個々に応じ調理方法に様々な工夫を凝らすなど、きめ細かい対応を行うことで食育の根幹を支えている。また、研究団体等の要職を歴任し、地域給食の振興に力を注ぐとともに、後進の育成にも貢献したことなどが評価された。

佐藤業務主査は、地場産物の活用に向けた献立の充実や調理の工夫、衛生管理の徹底、調理環境の充実に尽力。また、道学校給食コンクールで優秀賞を受賞するなど北海道における給食振興に貢献した。

伝達式は、29日に紋別養護、30日に網走市南地区共同調理場がある南小学校で挙行。伊賀局長が受賞者に表彰状を手渡した。

うち、佐藤業務主査は、南小の職員一同に見守られながら表彰状を受け取り、「今後も業務に精進していきたい」と謝辞を述べた。

松本栄養教諭（中央）



佐藤業務主査（右から2人目）

地元素材のパン等好評

清水高食品販売会 Feliz

【帯広発】清水高校（吉村教賢校長）は9月29日、清水町文化センターで生産技術系列食品分野販売会「Feliz（フェリス）」を開いた。新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、製造したパンやパウンドケーキ、サブレなどを販売。購入した地域住民から好評を得ていた。

清水町は本年度、清水高生が地元食材を使った新商品を開発できるよう、必要な予算を措置。同校振興会を通じて支援している。

同校は清水町の特産品であるニンニクを使ったガーリックフランスなどを開発。岩見沢市で行われたパン甲子園などに出品している。

販売会には、特産品を使った「にんにく棒」や清水産の小麦粉などを使ったコッペパン、じゃがいもパン、カルツォーネなど11品が並んだ。新型コロナウイルス感染症対策として、検温やソーシャルディスタンスの確保、飛沫防止のフェイスガードなど万全の態勢を整えた。

販売会は午前11時30分に開場。地域住民らが多数来場し、数分で商品は完売した。

訪れた清水町役場職員は「地元の特産品を使った商品開発をしてもらいうれしい。私たちも陰ながら応援していきたい」と話していた。

地域住民の一人は「これまで販売会に参加して買えなかった商品が買え、満足している」と笑顔をみせていた。

生徒らは笑顔で接客していた